



「大阪21世紀」1998年春号インタビューにて

語り継ぎたい梅棹忠夫氏 警世の理念

(2010年7月3日ご逝去)

財団法人大阪21世紀協会 理事長 堀井良殷

梅棹忠夫氏の存在そのものが巨大な知の森でした。そこから流れ出でる源流水が社会を潤し恩恵をもたらしてきたと改めて強く思います。

学問的業績はいわずもがな、関西や大阪を中心に社会の知的リーダーとして大きな役割を果たして来られました。戦後、多くの都市の文化政策や都市経営の基本的な精神的機軸は梅棹理論をもとに展開されたといっても過言ではありません。

1982年の大阪21世紀協会設立にあたって中心的メンバーとなり、常任理事・企画委員会座長として一貫して“文化立都”の旗のもと指導推進にあたられました。

“文化がないと都市らしい都市にはならない。文化があればこそ、めしが食えるのだ。もともと大阪は大文化都市であり、西日本の首都であった。その自覚を取り戻すべきだ。すべてがカネに収斂するような価値観だけでは尊敬される都市にはなれない。世界から尊敬され、世界で舞いを舞えるような人材が育つ都市になってほしい。”

梅棹先生から折に触れて伺った鮮烈な言葉が、よみがえってきます。つい最近お会いしたときも、わざわざ呼び止められ、大阪の文化事情を憂いつつ、理念と志の継続・継承を求めておられました。

大阪が知の森の繁茂する文化都市に少しでも近づけるのか、これからはきっと天上から私たちを叱咤激励しつつ見守って下さっているに違いありません。



大阪21世紀塾記者発表(1998年3月23日)にて

インターナショナルワークショップフェスティバル 250DOORS開催

平成22年7月31日(土)～8月24日(火)

大阪市役所、大阪市中央公会堂、芝川ビル、元・立誠小学校(京都市)、
大阪市立芸術創造館、大阪市旭区民センター

500円で演劇や音楽、古典芸能などさまざまなジャンルの体験講座を楽しめるインターナショナルワークショップフェスティバル。平成19年に38講座(38DOORS)でスタートしたものが、平成20年に

尺八講座(昨年度)



今年度の講師陣(一部)



「100DOORS」、昨年は「200DOORS」と年々拡大を続け、今年は従来の大阪市に加え、京都市にも会場を設け、「250DOORS」として開催します。今年も関西独自の「おもろい」や「こだわり」をキーワードに、世代・ジャンル・国境を越えて、できるだけ多くの皆さんが気軽に参加いただける「文化創造の扉」を提供していきます。

去る7月1日には、会場のひとつである芝川ビルで、ワークショップ講師にも多数参加いただき、記者説明会を開催し、マスコミなどで幅広く取り上げられています。

浪曲弟子入り講座(昨年度)



大川に煌めく5万個の星

平成OSAKA天の川伝説

7月7日は七夕の日。LEDを光源とする光の球5万個を、市民の願いを託して大川に放流し、天の川を創り出す「平成OSAKA天の川伝説」。昨年は実験回として実施され、今年が第1回。今回から大阪21世紀協会も主催に加わりました。一夜限りの光の大川に、詰め掛けた約3万人が酔いしれました。市民の力によるこの催しは、新しい大阪の景観創造に向け、10年、20年と続いていくプロジェクトとなることを目指しています。

天の川をバックにゴスペルを熱唱する「アノインティッド・マスキワイヤー」

